業務資料No.469

昭和51年度

市場調査報告書

熱帯果樹のサンパウロ・リオ市場における
生果物としての市場性

昭和53年3月

JICA
703
81.4
ESE
BRARY

国際協力事業団

はしがき

本調査は、当事業団在外支部が管内移住地の主要生産物に関する生産、流通機構等をミクロ的に把握することを目的に実施している市場調査の昭和51年度分として、サンパウロ支部が実施したものである。

国際協力事業団

移住第1業務部長

JICA LIBRARY
1025428[2]

国際協力事業団
受入月日 S87.2.235
登録No. 08331
703
81.4
ESE

目　　次

I　緒　　言 …… 1

II　サンパウロ市場における動向 …… 2

1.　マ　モ　ン …… 2

2.　メ　ロ　ン …… 6

3.　ピーニャ …… 11

4.　マラクジャ …… 14

5.　アバカテ …… 19

III　今後の需要予測 …… 23

1.　サンパウロ市場 …… 23

2.　リオ・デ・ジャネイロ市場 …… 24

IV　熱帯果樹の新規市場開拓に関する注意事項 …… 26

I 緒　　言

1. 調査の目的

熱帯果樹生果物の大市場であるサンパウロ・リオ市場の生果物の動向を調査し、関係移住地の熱帯果樹生産および新規導入に際しての資料に供する。

2. 調 査 員

サンパウロ支部　　農業情報室

3. 調査期間

昭和５２年３月

4. 調 査 地

サンパウロ中央卸売市場（CEAGESP）

リオ中央卸売市場（RIO CEASA）

Ⅱ　サンパウロ市場における動向

1.　マモン（パパイア）

CEAGESP（サンパウロ中央卸売市場）への年間入荷量および修正平均価格指数（貨幣価値下落率にて修正）を示したのが第1表であり、70年～75年の6ケ年間の間、平均年間約56万箱のマモンがCEAGESPに入荷している。しかし、その入荷量は、必ずしも安定平均化しておらず、かなりの年次変動があらわれている。これがマモン市場の一つの特性である。また、年次推移を見ると、一定の減産、増産傾向があらわれていない。これも一つの特徴であろう。つまり、近年のマモン生産は、年次的な一定傾向を持たず、年次的な変動が大きいと云う特性を持っていると云えよう。マモンが一般果樹と異なりこのような特性が現われる主な原因として次のような事が考へられる。

① 播種後ほぼ一年で収穫可能となり、しかも経済樹令がその後1～2年しかない。つまり生育周期が短期間で、永年性要素よりも短期的要素が強く、作付面積変動が大きい。

② 作物特性として降霜に弱く降霜災害による変動が大きいことと、無霜地帯に栽培適地が限定され、増殖が広域的に行なわれにくく、一定地域内の変動が大きく影響する。

③ 流通上の慣習から、出荷箱が他の果樹のごとく売り切りでなく、生産者が回収する方式であるため、遠隔地では、回収運賃が大きな出費となって、生産地が一定圏内に限定される。

④ 栽培技術面で、一般管理は比較的容易であるが、一方ビールスの発生しやすい特性を持っており、ビールス発生時のリスクを考へえると必ずしも安定して生産目標を達成しにくい。特に今日の生産費の高騰時には、そのリスクが非常に大きくなる。

一方需要は、近年人口増加に伴い、堅実に増えており、第1表に見るど

とく、価格も７４年で３３％７５年で５５％と実質的に上昇している。（ただし７５年度の高値は、霜害による要素も含まれている。）近年、生産費は確実に上昇し続け、多くの作物が所得率を低下させてきているが、その中でマモンは、比較的順調に価格上昇をしている作物の一つと云えよう。

月別の変動は、１９７５年のごとき霜害発生年は例外として、平年：４～６月、９～１１月に出荷が多く、安値で１２～３月、７～８月と出荷が減少し、高値を示す。

CEAGESPに出荷されるマモンの主要産地は、モンテアルト、ビルタアレグレフルト、ピランジ、ミランドポルス、マリリア等であるが、その中でも、モンテアルトの生産が圧倒的に多い。

第１表　CEAGESPのマモン入荷量および修正平均価格指数

年　次	入荷量 ※3箱	箱当たり平均価格 CrS	※1修正指数
１９７０	４５６,６９４	9.73	１００
１９７１	５７５,９８８	１０２４	８８
１９７２	３６１,２８１	２０.３９	１４９
１９７３	７５９,９７７	１８６３	１１１
１９７４	５９５,８０６	２９.７５	１３３
１９７５	５８６,０２４	４５.０５	１５５
※2 １９７６	６１６,７７１	６１.０８	１７０

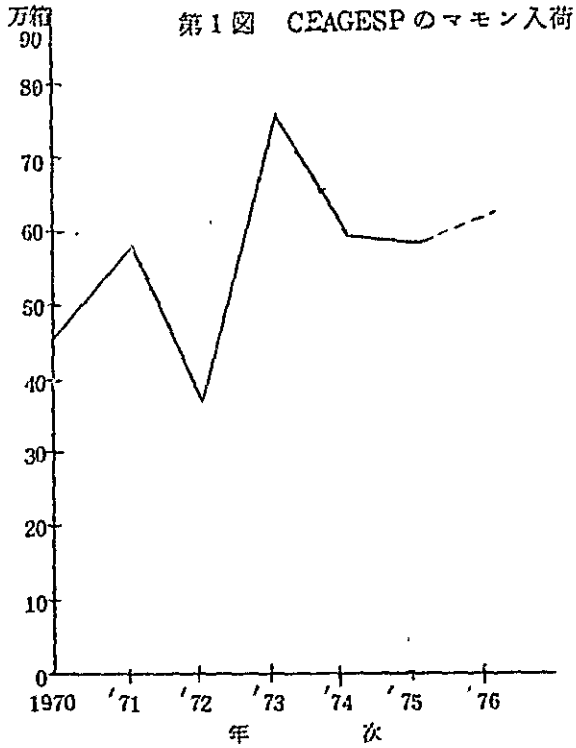
BOLETIM CEAGESP

※１　Fundacão Getulio Vavgas より発表された貨幣価値下落率により平均価格を修正したもの指数

※２　１９７６年１０月迄の数値

※３　単位箱（正味重３５Kg／箱）

第1図　CEAGESPのマモン入荷量



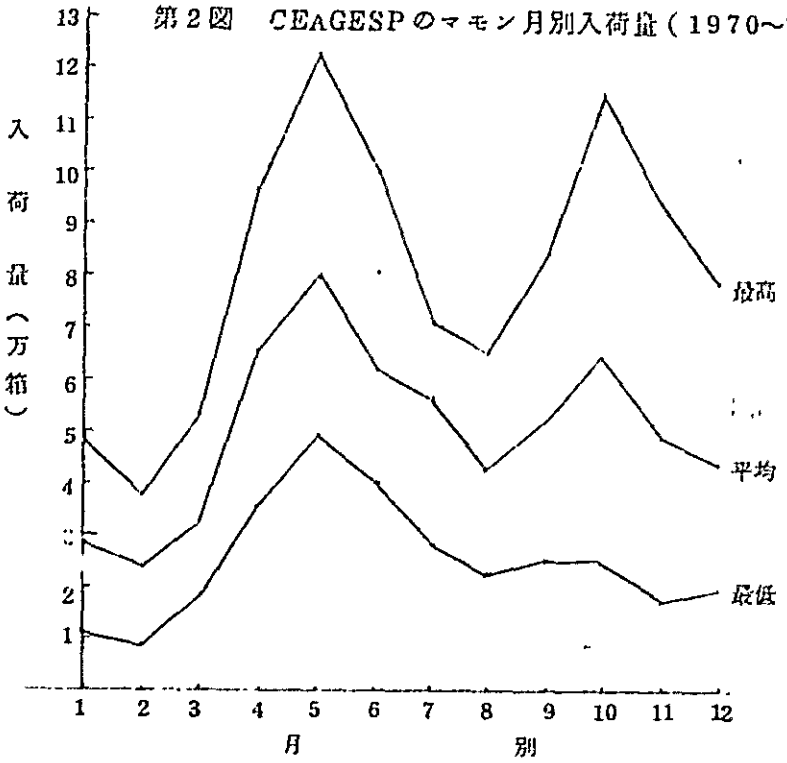
第2表　CEAGESPのマモン月別入荷量

箱（35Kg／箱）

月＼年次	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
1	18,316	34,295	24,387	24,655	48,712	28,986	11,586
2	18,025	37,367	21,973	31,714	20,935	27,315	8,147
3	19,893	51,979	27,268	46,871	30,592	24,729	16,706
4	50,954	52,522	30,585	65,053	57,723	92,691	82,713
5	71,237	68,074	49,858	70,588	75,626	121,438	108,308
6	43,519	40,148	39,912	55,098	61,615	100,917	70,179
7	28,607	36,918	24,582	52,214	47,099	67,164	56,005
8	36,169	38,022	19,246	65,449	42,511	30,563	64,797
9	46,208	47,420	23,972	78,023	45,060	32,800	84,081
10	45,222	59,543	36,076	96,604	69,358	23,229	114,249
11	38,799	58,648	30,408	94,287	55,696	16,598	
12	39,745	51,052	33,014	79,421	40,879	19,594	
年間	456,694	575,988	361,281	759,977	595,806	586,024	616,771

BOLETIM CEAGESP

第２図　CEAGESPのマモン月別入荷量（1970～76年）



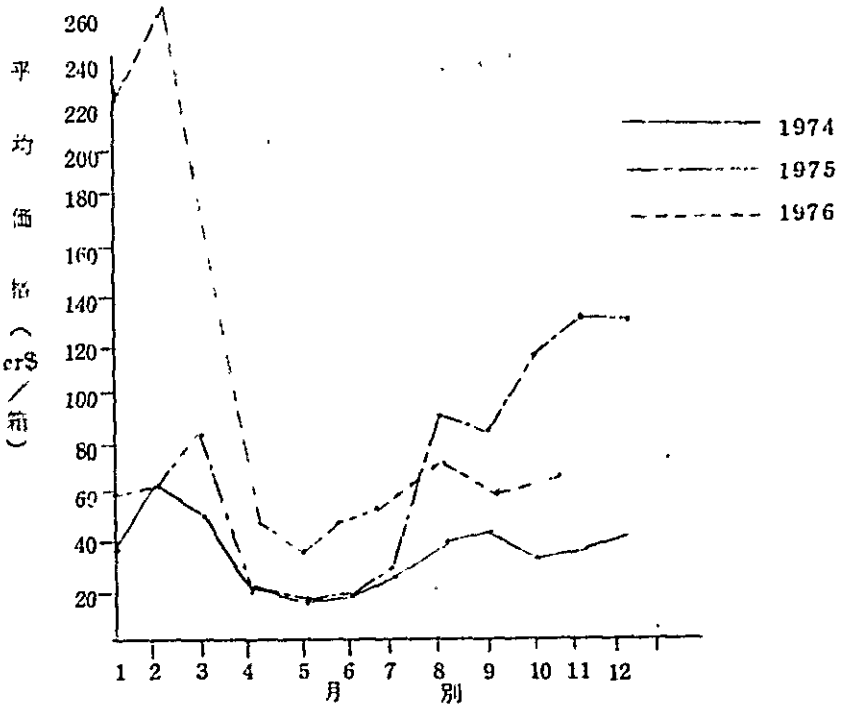
第３表　CEAGESPのマモン月別平均価格

CrS／箱

年次 / 月	1974	1975	1976
1	32.74	61.54	218.78
2	63.25	65.55	258.77
3	51.74	84.83	159.46
4	19.99	23.77	42.99
5	14.29	16.18	34.34
6	17.55	17.51	48.38
7	23.22	30.18	55.13
8	36.47	90.24	72.49
9	40.60	81.91	60.05
10	29.31	115.44	60.65
11	32.42	129.92	
12	39.05	126.81	
年間平均	29.75	45.05	※61.08

※10月迄の平均値　　BOLETIM CEAGESP

第３図　CEAGESPのマモン月別平均価格



2.　メロン（スペインメロン）

第４表に示すごとく、CEAGESPのメロン入荷量は近年毎年２０～３０％の増加を見ており、７２年７３年頃までは、スペインからの輸入品が出廻っていたが、現在では、国内需要の全てを国産品が賄っている。CEAGESPの果菜部門の売上げ高でも、今やオレンジ、ブドウに次ぐ第３位の位置を占め、重要果樹の一つとなっている。このように急激な増産を見た原因は、後述する生産地域の拡大と、栽培技術の向上によるものと見られる。従来ブラジルメロンは、２～３月、６～１０月の生産がほとんど無く、この時期はほとんどを輸入品に依存していたが、現在では、６～１０月の生産が、他の時期と比して低いものの、ほぼ周年出荷がなされている。

価格は、生産の急増にもかかわらず、実質的価格でも、１９７０年時点とほぼ同価格であり、供給過剰傾向は見られず、近年の増産のあたえた影響は、

輸入品シェアを国産品が奪った点にあると考へられる。時期的価格変動は、需給バランスの要因で、6～10月価格が高値を示す傾向を持っている。

メロンの生産地は、大きく次の4地域に分けることが出来る。

(1) サンパウロ州西部

プレシデンテ・プルデンテ，サント・アナスタシオ，プレシデンテ・ベンセスラウ，プレシデンテ・エピタシオ，ツッパン，パストス，パカエンブー，イラブルー等で、栽培時期は、

8～10月　播種　　11～1月　収穫

1～　2月　播種　　4～5月　収穫

である。

(2) バイア州カラベラス地方

南バイアのテイシェイラ、ジュエラーナ、カラベラス地方で、栽培時期は、

11～12月　播種　　2～3月　収穫

である。

(3) パラ州

ベレン近郊のサンタ、イサベル、カスタニヤール、カビトン・ポッソ、ノーボ・キンボテウア、トメアスー地方で、栽培時期は、

4～7月　播種　　7～10月　収穫

である。

(4) ペルナンブコ州

タマネギ栽培地域がメロンの栽培地域となっており、栽培時期は、パラ州と栽培時期である。しかし同地方は、タマネギとの競合があり、市場見通しの良い方に栽培が傾く。

かくのごとく、この4大生産地が一定量栽培すると、周年入荷が可能となる。

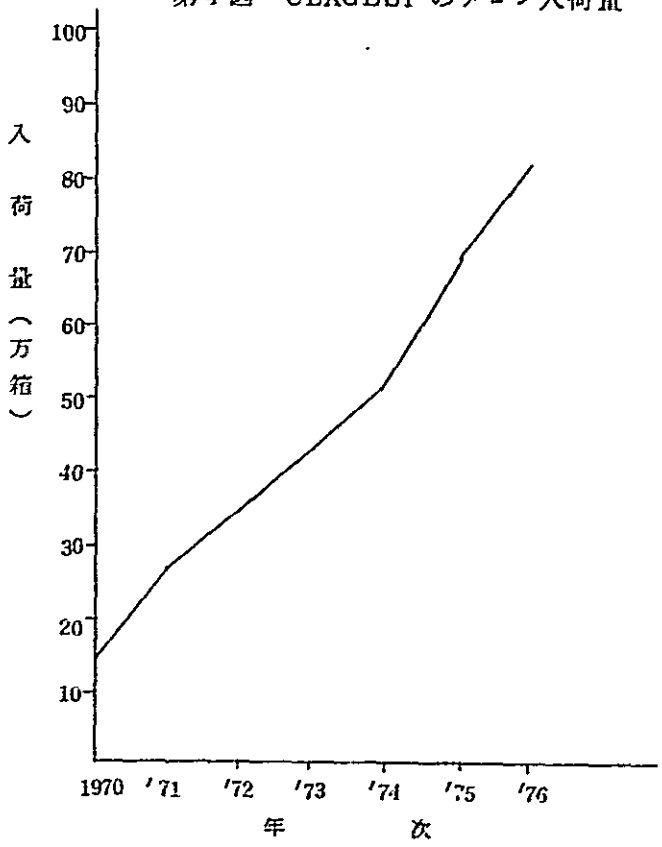
第4表　CEAGESPのメロン入荷量および修正平均価格指数

年　次	入荷量 ※2 箱	平均価格　箱当り Cr$	※1 修正指数
1970	145,004	23.78	100
1971	268,921	24.10	84
1972	343,699	33.01	98
1973	433,702	42.97	104
1974	514,597	55.14	100
1975	680,140	81.51	115
1976	886,121	100.17	114

BOLETIM CEAGESP

※1　マモンと同様
※2　単位箱の正味重は15Kg／箱

第4図　CEAGESPのメロン入荷量



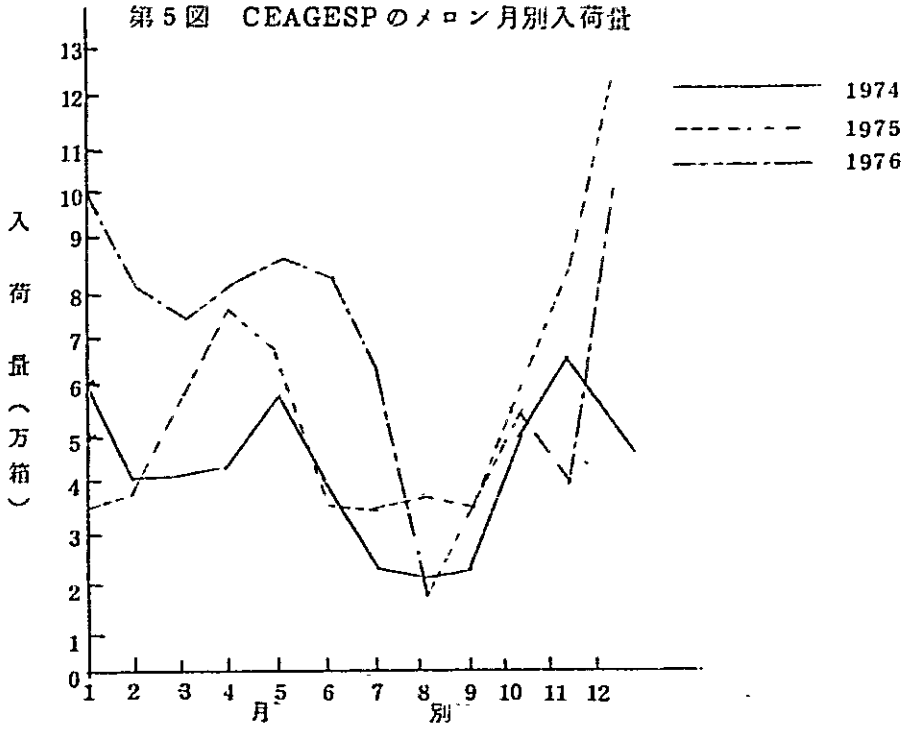
第5表　CEAGESPのメロン月別入荷量

箱（15kg／箱）

年次／月	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
1	3,168	13,511	28,951	40,910	61,964	35,553	98,553
2	4,986	11,645	12536	22,633	40228	37,903	79,337
3	3,689	25,072	13,468	41,744	41,017	58,445	72,926
4	8,720	28,718	33,956	60,086	43547	77,149	81,198
5	15,936	36,095	51,770	39,858	59,222	67,990	86,190
6	15,061	21,731	41,911	17,478	40,523	35,965	82,164
7	4,790	1,624	38,144	12,463	22173	35,020	62,428
8	3,101	3,235	18,601	23,506	20,745	36,932	16,500
9	7,167	2,991	3,010	21,914	22,050	35,312	33,601
10	6,663	14,802	10,929	25824	48,314	53,629	55,320
11	14,924	48,203	34,403	34,552	66,397	84,428	40,820
12	51,799	78,158	56,020	84,415	51,782	121,784	109,706
年間	145,004	268,921	343,699	433,702	514,597	680,140	818,743

BOLETIM CEAGESP

第5図　CEAGESPのメロン月別入荷量



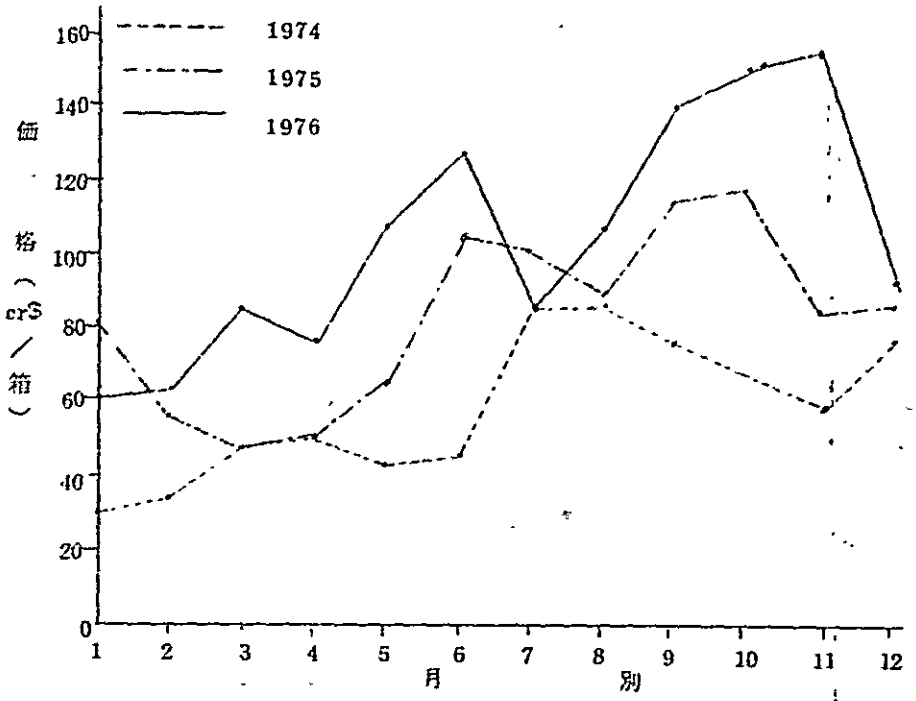
第6表　CEAGESPのメロン月別平均価格

Cr$ /箱

月＼年次	1974	1975	1976
1	30.57	81.14	60.89
2	34.37	57.18	64.47
3	48.38	48.29	85.27
4	50.69	51.59	77.12
5	43.88	65.78	109.24
6	47.23	106.06	129.56
7	86.74	104.33	86.89
8	87.33	90.23	108.02
9	76.61	115.46	141.00
10		119.38	150.92
11	58.76	85.07	155.28
12	77.79	87.41	94.20
年間平均	55.14	81.51	100.17

BOLETIM CEAGESP

第6図　CEAGESPのメロン月別平均価格



3. ピーニャ（フルッタ・デ・コンデ）

CEAGESPへの入荷量は、第7表に見るごとく、75年度までは、順調な伸びを示していたが、75年の大霜害により、サンパウロ州西部、特にミランドポリス、グァラサイ地方の樹が大被害を受け、76年度の生産は、激減した。この霜害により、回復不能と診断しうる樹も相当数有り、当分の間、入荷量は増加してこないものと推測しうる。ただ、今までのピーニャは、実生苗を使用したところから、病害低抗性が弱く、経済樹令が短かかったが、最近では、耐病性の台木への芽接ぎ苗を使用するようになっており、新植による霜害回復とともに、生産量は、伸びてくるものと思われる。

ピーニャの入荷時期は、固定しており、2月を最盛期として、1～6月が入荷期で、それ以外の入荷は極めて少ない。

この果実は、上品な甘味を持ち、ブラジル人の好む果実の一つであるが、欠点として、保存性が無く、流通上ストック調整がきかない所から、入荷量と価格に他の作物以上の強い相関がある。従い出荷最盛期に当る2月には、平年急激な下落が見られる。

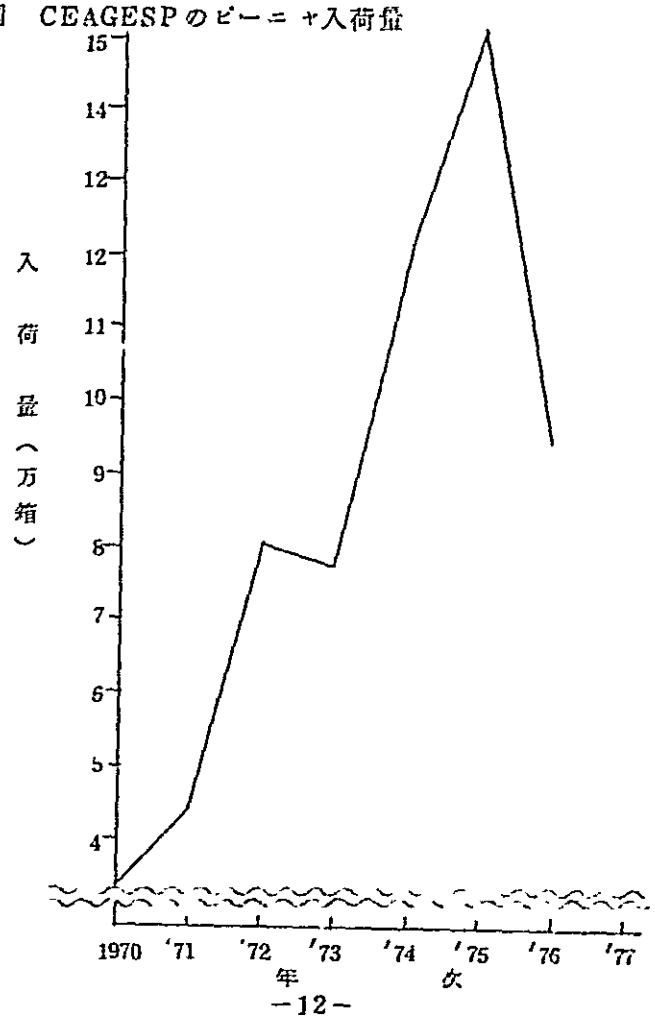
主要生産地はサンパウロ州で、リンス、ケフェランジア・ミランドポルス、グァラサイ、プレシデンテ・プルデンチ等から全入荷量の約75％が入荷する。その他北パラナ方面からの入荷もある。なお、市場見合せで、高値時には、パルナンブコ州、アラゴアス州等からも入荷してくることがある。たとえば、霜害の影響を受けた76年度では、入荷量の約20％がこれらの地域からのものである。

第7表　CEAGESPのピーニャ入荷量および修正平均価格指数

年　次	入荷量※2箱	平均価格 箱当り	※1 修正指数
1970	33,912	10.53	100
1971	44,015	14.65	116
1972	80,883	15.20	102
1973	77,456	22.11	121
1974	120,263	21.82	90
1975	150,512	25.74	82
1976	94,086	36.24	93

※1. マモンと同様　　BOLETIM CEAGESP
※2. 単位箱の正味重は，約6Kg／箱

第7図　CEAGESPのピーニャ入荷量

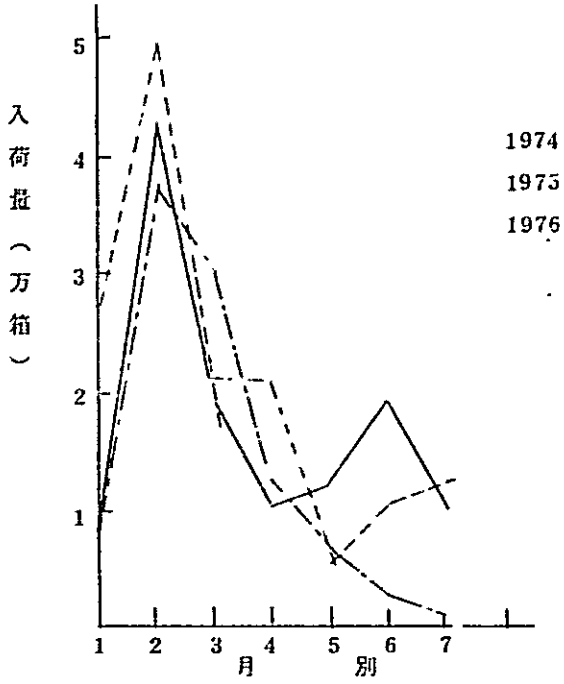


第8表　CEAGESPのピーニャ月別入荷量

箱（6Kg／箱）

月＼年次	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
1		4,974	2,815	6,225	6,939	26,184	4,694
2	12,776	10,231	18,136	19,904	43,027	50,050	37,525
3		4,602	13,576	18,186	19,010	20,902	30,061
4	5,468	4,384	7,305	5,251	10,813	20,772	12,332
5	6,087	2,673	12,721	4,708	11,758	5,268	6,029
6	3,096	3,434	10,805	14,473	18,250	10,519	2,332
7	4,531	4,433	10,885	5,283	10,195	12,277	[illegible],509
8	1,712	8,675	4,242	1,797	239	1,603	[illegible],126
9	115	205	230	1,206	—	—	232
10	30	134	73	273	32	91	99
11	40	270	45	126	—	9	167
12	57	—	50	24	—	2,837	—
年　間	33,912	44,015	80,883	77,456	120,263	150,512	94,086

第8図　CEAGESPのピーニャ月別入荷量



第9表　CEAGESPのピーニャ月別平均価格

CrS／箱

年次／月	1974	1975	1976
1	25.60	30.66	46.64
2	16.51	20.47	33.29
3	20.65	27.08	36.78
4	26.11	28.77	39.92
5	27.90	30.00	
6	27.67		
7		27.55	
8			
9			
10			
11			
12			
年間平均	21.82	25.74	36.24

BOLETIM CEAGESP

4. マラクジャ（パッションフルーツ）

マラクジャのCEAGESP年間入荷量は、'72年まで5万箱前後であったものが、'73年'74年と急増し、12万箱台となり、'75年に入り再度激減して5万台にまとり、さらに'76年度には、'75年の雹害の影響から4万箱台に落ちるという、急激な変動をしている。このような変動をする基本的な要因としては、次のような事が考へられる。

(1) マモン同様、収穫年数が2年程度で、栽培周期が短期間で、需給関係により、作付面積が変動しやすい。

(2) ブラジルマラクジャの品種特性として、フザリュウムに対する抵抗性が弱く、病害発生が地域的発生となり、栽培地域が急減する可能性を持っている。

(3) マラクジャ需要の第一がジュース加工にあり、オレンジジュースの兼合いで加工しているブラジルジュース工場の現状から、工場サイドの買

付けいかんにより、生果物出荷量が変動してくる。

近年のマラクジャ市場の動向を見ると'7０年～'7２年は、各地のジュース工場がマラクジャを比較的高値で購入していたため、CEAGESPへの入荷も５万箱台に停り、実質的価格も'7０年並みとなっていたが、'7３年度'7４年度となるとオイルショックの影響を受け、各ジュースメーカーとも、オレンジジュースの輸出が不調となって、オレンジの原料、ジュースともにストックが急増、その影響を受け、マラクジャの買控えが発生した。従って工場向けマラクジャが生食用として市場に出廻り表に示すような入荷量の急増、価格の下落という結果を生んだ。このような価格下落の為、生産者側にマラクジャ栽培をとりやめる傾向があらわれ、'7５年度には、生産自体が減少して再度５万箱台に落ち付き、実質価格も回復してきた。

マラクジャは、長日作物であるところから１月～７月の入荷が多く、８月～１２月に荷薄となっている。ただし、パラ州のような、日長変化の少ない地域では、周年出荷が可能で、この高値時をねらっての出荷が多くなっている。

主要生産地は、第１３表に示す地域で、カンピーナス地方には、インダイアツーバ、カンピーナス、ヴィニエード、パリンニョ、アチバイア、イツー等が、レジストロ地方には、イグアッパ、パリケーラ・アスー、レジストロ等が、サンパウロ西部には、ペレイラ・バレットス、パカエンブー、イラブル、マリリア、アダマンチーナ、プレシデンテ・プルデンテ等が含まれるが、生産地域の変動は極めて激しく、'7４年の大生産地であったカンピーナス地方、エリアス・ファスト地方、サンパウロ西部の生産は、'7５年には減少しており、最近では、レジストロ地方やパラ州の生産が増えてきている。

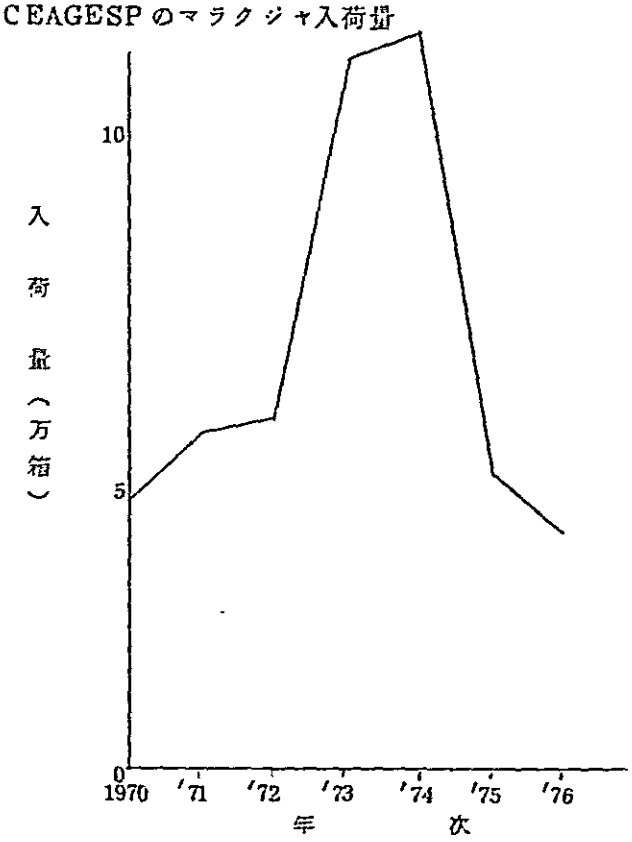
第10表　CEAGESPのマラクジャ入荷量および修正平均価格指数

年　次	入荷量 ※2 箱	箱当り平均価格 CrS	※1 修正指数
1970	45,864	13.67	100
1971	56,957	16.33	99
1972	59,676	22.22	115
1973	120,462	21.53	91
1974	124,922	21.90	70
1975	50,401	50.85	124
1976	40,667	78.49	155

BOLETIM CEAGESP

※1　マモンと同様
※2　単位箱（正味重約14Kg／箱）

第9図　CEAGESPのマラクジャ入荷量



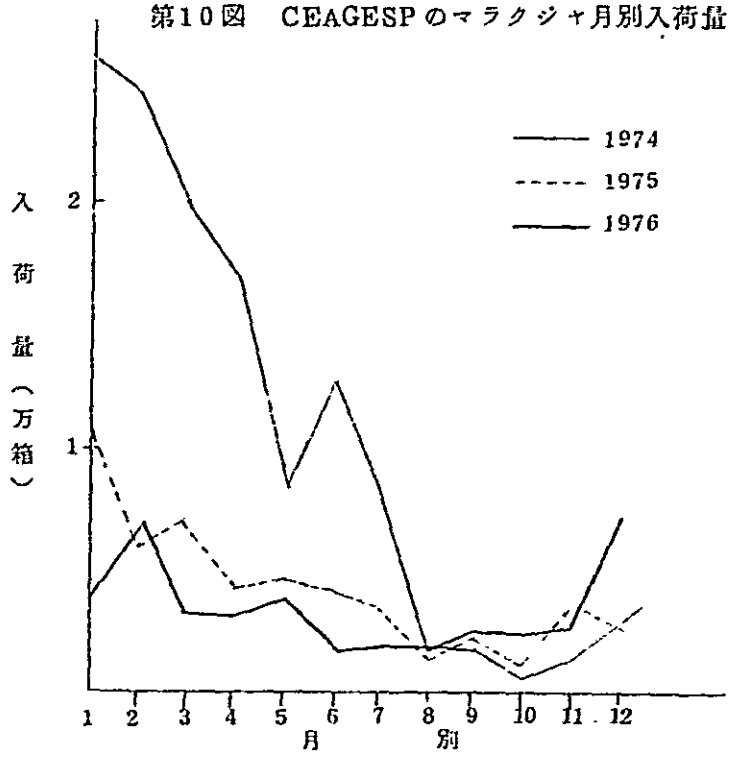
第１１表　CEAGESPのマラクジャ月別入荷量

箱（１４kg／箱）

年次／月	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
1	6,165	14,127	9,426	15,456	25,884	10,418	3,974
2	8,553	8,314	8,162	17,636	24,520	5,891	6,628
3	3,140	5,855	7,682	11,684	19,986	7,133	3,196
4	4,268	3,283	7,398	18,636	17,085	4,121	3,218
5	8,122	8,643	6,996	16,125	8,368	4,599	3,933
6	5,682	6,500	3,831	14,864	12,726	4,229	1,710
7	3,336	3,444	3,101	9,797	7,878	3,383	1,963
8	1,052	2,607	1,622	3,699	1,753	1,271	1,573
9	294	177	752	1,964	1,890	2,092	2,412
10	82	68	603	1,030	509	950	2,268
11	407	592	1,414	2,402	1,457	3,767	2,576
12	4,763	3,347	8,689	7,119	2,916	2,547	7,216
年間	45,864	56,957	59,676	120,462	124,922	50,401	40,667

BOLETIM CEAGESP

第10図　CEAGESPのマラクジャ月別入荷量



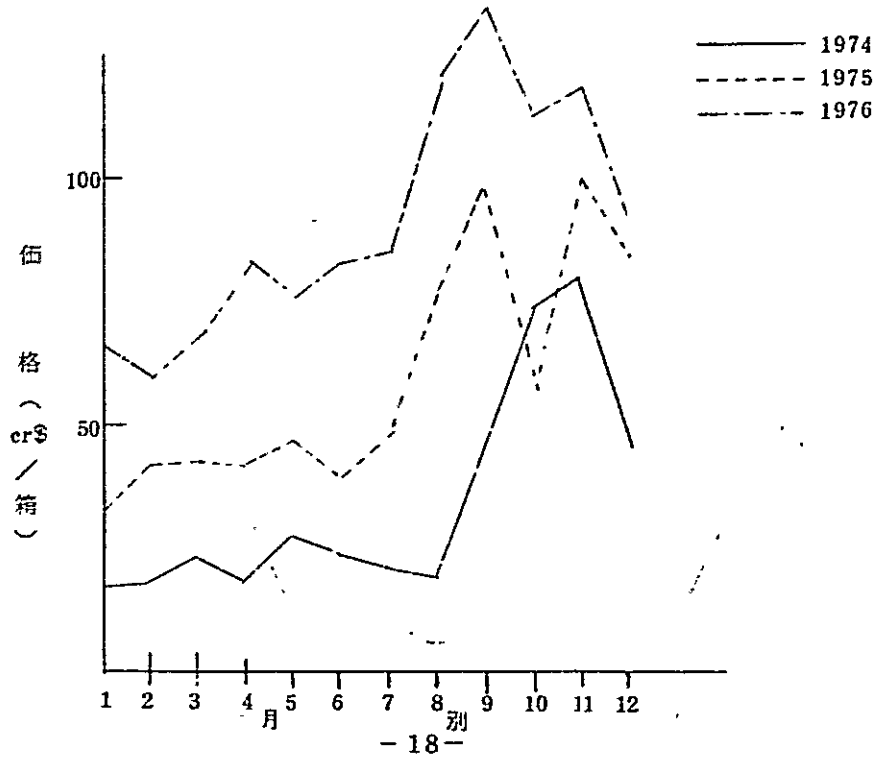
第１２表　CEAGESPのマラクジャ月別平均価格

Cr$／箱

年次 / 月	1974	1975	1976
1	16.43	32.31	66.04
2	17.70	42.05	60.63
3	23.61	42.98	68.75
4	17.10	42.03	82.99
5	26.59	47.14	76.59
6		38.93	83.48
7	20.64	48.43	85.45
8	19.25	77.10	121.15
9	65.19	99.23	135.35
10	75.61	56.91	113.33
11	80.74	101.31	118.93
12	46.86	83.06	92.26
年間平均	21.90	50.85	78.49

BOLETIM CEAGESP

第１１図　CEAGESPのマラクジャ月別平均価格



第１３表　CEAGESPのマラクジャ地域別入荷量

箱（１４Kg／箱）

地域＼年次	１９７２	１９７３	１９７４	１９７５	※１９７６
カンピーナス地方	２２,０４２	４６,９０３	５４,３７１	１３,５９０	７,５０４
エリアス・ファウスト地方	３,５３４	２１,９１２	１１,９７９	２,１３０	３１５
レジストロ地方	２,６４５	５,６３１	１２,６７３	８,３９８	５,５４１
盟西地方	３,１１１	１０,３１１	１２,１７２	５,７７７	１,８２０
パライーバ州				８９２	２,５６４
パラナ州			２,１２１	９０４	
パラー州				５,９４２	５,１７０
その他	２３,３４４	３５,９０５	３１,６０６	１２,７６８	７,１９７
合計	５９６７６	１２０,４６２	１２４,９２２	５０,１０１	３０,２１１

※　１９７６年１０月迄の統計　　BOLETIM CEAGESP

5.　アバカテ（アボカード）

CEAGESP 取扱い果実の中で、アバカテは、販売額第１０位と重要果樹の中に含まれ、その入荷傾向も順調に伸びている。実質的価格も上昇して来ており、経済的に有利な作物である。また、'７６年度、霜害により多少の影響を受けているものの、他の果樹のごとく大減産にはつながっていない。これは、アバカテ生産地域が元来無霜地帯にある為である。

時期的に見ると、１～７月が多く入荷期で、８～１２月が荷薄となり、特に１１月、１２月は、極めて少なく、毎年この時期に高騰を見る。従い高温地での奥早生種の早出し栽培や冷涼地での晩生種遅出し栽培は非常に有利となる。

アバカテの適地は、無霜地帯で、表土厚く肥沃な土地であるが、現在の主要生産地は、次に示すごとく非常に広域にわたっている。

(1)　カンピーナス、リベロンフレット地帯

ジャルジノ・ボリス、コルデイロボリス、ピラスヌンガ、アララス、リメイラ、カンピーナス、アグアイ、バリンニョス等。

(2)　モンテアルト地帯

モンテアルト、ビスタ・アレグレ・スール等。

(3) タッイー地帯

タッイー、イツー、イタペチエンガ等。

(4) パラナ州

(5) ミナス州

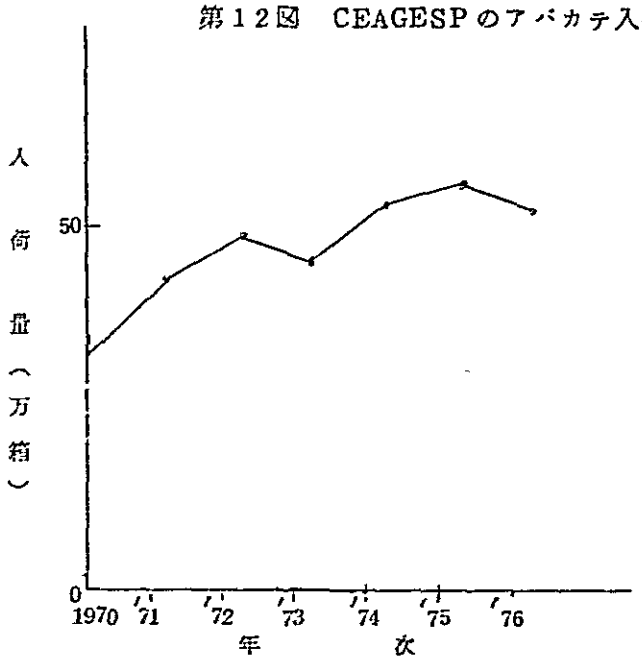
第14表　CEAGESPのアバカテ入荷量および修正平均価格指数

年　次	入荷量 ※2 箱	箱当り平均価格 CrS	※1 修正指数
1970	300,299	11.10	100
1971	409,111	10.86	88
1972	478,271	15.86	110
1973	447,537	20.97	118
1974	532,907	27.74	108
1975	565,359	36.72	120
1976	542,947	56.74	138

平均価格はC.A.C-CEAGESPより
入荷量はCEAGESPより

※1　マモンと同様
※2　単位箱（正味重24.5kg／箱）

第12図　CEAGESPのアバカテ入荷量

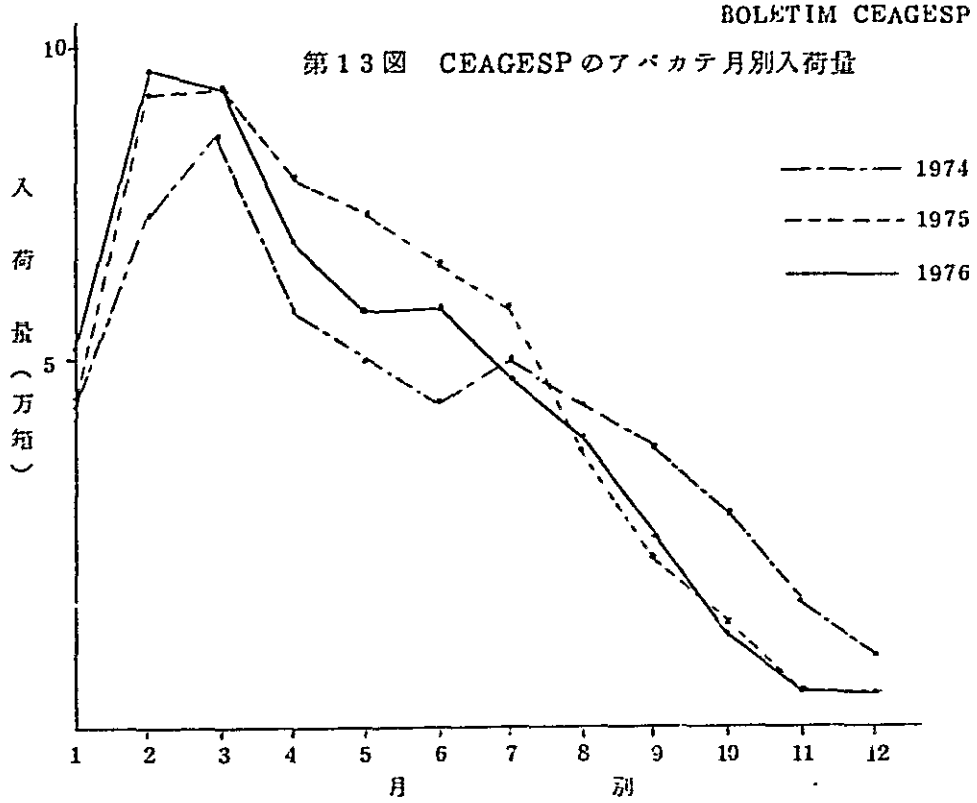


第１５表　CEAGESPのアバカテ月別入荷量

箱（２４.５Kg／箱）

月＼年次	１９７０	１９７１	１９７２	１９７３	１９７４	１９７５	１９７６
1	16,313	13,643	34,108	33,716	14,646	44,088	51,616
2	38412	37,878	66,940	78,107	69,503	85,940	88,053
3	51,436	80,954	67,968	78,824	80168	86,583	86634
4	47,397	56,570	47,090	59,726	56,184	74,582	65,876
5	31,558	39,457	45,522	46,765	49911	69,381	56,305
6	24,574	34,593	46,959	46,271	44,215	62,931	57,116
7	22,744	36,876	38,772	36,191	49,708	56,948	47,256
8	18,010	39,997	38,337	28,455	43,846	38,080	39,011
9	18,408	31,310	34,102	20,748	37,951	23,157	25,772
１０	16,849	22,439	27,271	10,444	29,112	14,188	13119
１１	8,395	10,203	19,252	2,223	17,030	4,933	5,432
１２	6,203	5,180	11,950	6,037	10,333	4,558	4,506
年　間	300,299	409,111	478,271	447,537	532,907	565,369	542,947

BOLETIM CEAGESP



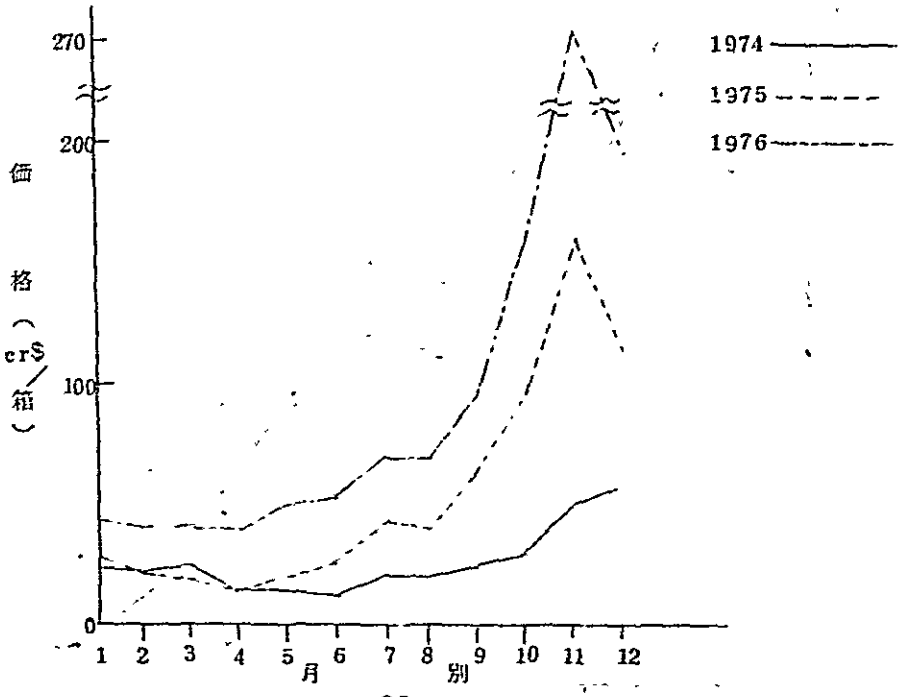
第１６表　CEAGESPのアバカテ月別平均価格

Cr$／箱

年次／月	1974	1975	1976
1	23.93	30.26	45.89
2	22.54	21.16	42.07
3	23.91	21.19	41.86
4	15.97	16.16	41.15
5	16.09	20.33	50.17
6	13.77	27.77	53.93
7	21.22	43.26	69.79
8	22.19	38.86	68.72
9	26.19	61.72	96.34
10	30.44	95.57	154.70
11	51.84	157.59	273.65
12	58.33	112.42	194.57
年間平均	27.74	36.72	56.74

CAC-CEAGESP

第１４図　CEAGESPのアバカテ月別平均価格



Ⅲ　今後の需要予測

1.　サンパウロ市場

(1)　マ　モ　ン

ブラジル人の嗜好する食生活上重要な果実であり、人口の都市集中化にともなって、消費能力も増大し、消費量が伸びることは間違いない。

最近のサンパウロ市場には、パラ州よりハワイマモン種が入ってきており、その品質（甘味度、果肉の色、大きさ等）が、サンパウロ市場では好評を得、その消費は、着実に伸びている。現在は、従来からのブラジルマモンと比して極めて高価であるため、その販路は限られているが、その将来性は極めて有望である。一方、従来より栽培されてきたブラジルマモンは、品質的に劣るだけでなく、現在慣行の出荷箱の回収方式をとっていることが販路拡張の阻害要因となっており、今後ハワイマモンの入荷量次第では、ブラジルマモンの需要に大きな影響を与えるものと思われる。

(2)　メ　ロ　ン

メロンについては、現在入荷量、実質価格ともに順調に伸びており、今後の需要についても特別な問題点は無いと思われる。

(3)　ピ　ー　ニ　ャ

ブラジルの嗜好する果実であり、多少の入荷量の増大があっても、サンパウロ市場での販売は、それほど問題にならないと思われる。

また、生産自体、当分の間7５年の霜害の影響により増産は望めないし、回復後も、作物特性として、ストック能力に落ちるところから、収穫時の収穫、調整作業が極めて多忙となることから、投動能力をオーバーした増植は不可能であり、また市場においても、ストックによる価格調整が不可能で、供給増が直価格下落につながるところから、生産者側が急激に生産を伸ばすことは無いと思われる。

(4) アバカテ

消費量の多い果実であり、過去の入荷量、価格の伸び方からして、今後の生産もさらに伸びて行くものと思われる。また、販売面も当面供給に見合う需要のあることが予測しうるが、今後5年、10年先を考えた場合、現在市場で好まれている大型果実が、将来とも好まれ続けるかどうかは、「核家族」化している社会情勢からして疑問視されており、大型果実よりも中型、小型の果実が市場性を持ってくることが充分に考えられる。

また、現在直面している問題点としては、出荷時の荷姿がある。一般にサンパウロ市場に入荷して来る荷姿は、トマト箱が規格になっているが、この形態だと荷傷みがひどく、多量の不良品が消費市場に出廻っているのが現状で、今後他の果実との競合にたえる為にも、出荷法の改善が必要であろう。

(5) マラクジャ

ジュースとして非常に好まれている果実で、消費量は伸びてきているが、生果としての入荷量がそれにともなっていない。しかし、最近マラクジャの良質なびん詰の濃厚ジュースが市場に出廻っており、今まで通り今後とも、生果の消費が伸びて行くという点は疑問視されており、むしろ生果としての需要は次第に落ちて行くとの予測がされている。

2. リオ・デ・ジャネイロ市場

リオ・デ・ジャネイロの市場は、従来3ケ所の市場があったが、'76年より、CEASA-RIO として一つの市場で取引きがなされるようになった。

従い、現在の所、リオ市場に関しては、統計資料が整っておらず、数的に把握が正確に出来ないが、いずれにしても、リオ市は、サンパウロ市に次ぐ大消費市場であり、果実類についてもサンパウロ市場の約30%は、

入荷しているものと思われる。特にリオ市は、海岸線の狭い地域であり、果実類の消費は多い。

(1) マ モ ン

入荷の時期変動や価格は、サンパウロ市場とほぼ同様である。リオ市場に入るマモンは、主にミナス州、リオ州、エスピリット・サント州、バイア州産のもので、時にリオ市場の高値時には、サンパウロ市場からの入荷もある。現在サンパウロ市場で注目されているパラ州産ハワイマモンは、今だリオ市場へは、ほとんど入荷されていないが、サンパウロ市場同様、今後の需要増は大いに期待しうるものである。

(2) メ ロ ン

リオ市場でもサンパウロ市場同様、周年入荷しており、今後の傾向向にも特別な問題点は無いようである。価格はサンパウロ市場とほぼ等しい。ペルナンブコ州産が7～11月、バイア州産が1～4月に入っており、その他の時期には、サンパウロ州よりの直送、転送分が入荷している。

(3) ピ ー ニ ャ

ペルナンブコ州、セアラ州等北東部産物が、多く入荷しており、9～2月の入荷が多い。なお、ピーニャは、サンパウロ市場からの転送や、サンパウロ州からの直送は、ほとんどない。

(4) ア バ カ テ

入荷状況、価格、今後の見通しともサンパウロ市場と同様であり、サンパウロ市場からの転送分も入荷している。

(5) マ ラ ク ジ ャ

入荷の時期変動や価格は、サンパウロ市場とほぼ同様である。リオ市場には、リオ州産、バイア州産が多く入荷しており、高値時には、サンパウロ州からの直送、転送による入荷もある。リオ市の場所がら、ジュースとしての需要は多いが、生果としての将来性は、サンパウロ市場同様、減少が予想される。

Ⅳ　熱帯果樹の新規市場開拓に関する注意事項

今後とも熱帯果樹に関しては、新規果樹や異系統の市場開拓が行われるものと思われるが、このような市場開拓に際しては、次の事項を特に考慮せねばならない。

1.　プレテスト

一般に、熱帯果樹は味が酸辛で、香りが強いと云う特性を持っており、嗜好性が非常に問題となる。従って、市場開拓に際しては、消費者の対象果樹に対する嗜好性を確実につかむ事が必要であり、その為には、一般消費者をはじめ、卸業者、専門家、組合等から、巾広く意見聴取し系統だった分析をせねばならない。

2.　需要定着までの試作、販売

新系統種の導入に成功した、マモン・ハワイ種、マンガ・ハーデン種を例に取りその時とられた試行を示すと次の通りで、今後の新果実開拓に際してもこれら程度の考慮はなされねばならない。

(1)　両果実とも、果実の持つ特性（特に味）の普及のため、一般消費者、小売商人、卸商人に対して、徹底した試食をさせた。

(2)　プレテスト後の栽培は、試食用に不足をきたすことがないよう、ある程度の規模を確保した。

(3)　試験的販売段階では、マンガ・ハーデン種の場合は、安値で売りはじめ、消費者層を広め、需要増大とともに価格を高める方法をとり、マモン・ハワイ種の場合は、当初より高値で販売し、値を下げることなく、高級品イメージを作り上げていった。

(4)　新聞、無線等で直接消費者へのＰＲを行った。

なお、この段階での費用は、現在の所、生産者負担であり、需要不安

時のリスクも生産者が負担するとの生産者意識が必要である。

3. 市場での果実のイメージ

高級果実か大衆果実かのイメージを決定するポイントがあり、それに対応した生産販売を行なわねばならない。考慮すべき事項として、

高級果実の場合は、

(1) 良品質品だけを出荷対象とする。

(2) 出荷用箱の高級イメージ化を図る。

(3) 荷傷みの無い出荷法を図る。

大衆果実の場合は、

(1) 安価との印象を与える。

(2) 出荷用箱の経済性等既売経費を下げる方策を考える。